

第 15 回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録要旨

○日 時：令和 7 年 11 月 28 日（金） 13：00～15：00

○場 所：八幡市役所本庁舎 5 階 会議室 5－2

○傍聴者：なし

1 開会

2 議事（協議・報告）

- (1) 令和 6 年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の効果検証について【資料 1】
【資料 1 参考】
- (2) 第 2 期総合戦略の最終総括における効果検証について【資料 2－①】【資料 2－②】
- (3) 企業版ふるさと納税の報告について【資料 3】

3 その他

- ・懇談会でいただいたご意見について、とりまとめのうえ、庁内で共有するとともに、本日の会議内容について、議事録を作成のうえ、市ホームページにて公開を予定している旨説明、了承。

4 閉会

【主な意見等】

臨時交付金への意見

【資料 1】【資料 1 参考】

<委員>

臨時交付金事業において、市の持ち出しが発生するか。また、「農業者物価高騰対策緊急支援事業（5 年度繰越）」の繰越理由とは何か。

<事務局>

臨時交付金は国補助率が 10/10 であることから全額国費を充当したため、市の持ち出しはなし。繰越理由は、令和 5 年度中に募集が集まらず申請受付期間を確保するため。

<委員>

交付金の使途としては、概ね適切であると判断。

第 2 期総合戦略総括への意見

【資料 2－①】 【資料 2－②】

1 子どもが輝く未来の創生「やわた子ども未来プロジェクト」

<委員>

「全国学力・学習状況調査結果」に係る達成状況の分析は、全国的な分析にとどまっておらず、八幡独自の課題についてより一歩進んだ分析が必要。分析の精度を高めることは、目

標の達成にも繋がる。

<委員>

「将来への夢や目標を持つ子どもの割合」の目標値に合理性があるならば、小学生の割合が未達である件について残念に思う。また、「市内不登校児童生徒出現率」では、不登校が出現すると悪いのかという議論となる。

<委員>

達成状況の分析が曖昧であるため、今後の方向性が抽象的な表現にとどまっているのではないか。

<委員>

学力は年々低下傾向であるが、コロナの問題だけではないと思う。目標を決める上で、より丁寧な分析が必要である。

<委員>

学力について原因分析は必要であるが、中学生の数値が向上しているならば、小学生については遊びなど学力以外の要素も大きいことから、小学生の数値はそれほど意識しなくても良いのではと思う。

<委員>

学力については、親の要因もあるかと思うが、時代の変化によりゲームをする時間が増えた背景もあるのでは。今後、義務教育課程をトータルして評価することも考えられる。

2 健康都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

<委員>

「市民スポーツ公園利用者数」では、市民スポーツ公園の位置的問題も影響しているかと思う。

<委員>

単に「市民スポーツ公園利用者数」の目標値が高かったのでは。感覚的には、目標には未達であるものの、適正利用であったのではないか。

<委員>

個人的に利用するときにはいつも市民スポーツ公園のグラウンドは利用者が多く、駐車場は満車の状況である。

<委員>

市民スポーツ公園の駐車場は満車で、未就学児連れの家族の利用も多く、土日祝は体育館利用もある。

3 観幸のまちの創生「訪れてよしのやわた魅力向上プロジェクト」

<委員>

「ボランティアガイド人数」「お茶学習参加者数」の目標値設定が高かったのではないか。「プロモーション（商談会）参加件数」も目標値が高いか、あるいは限界かと推測される。

<委員>

「観光意欲度」について、毎年同じイベントでは効果がないため、今年度、石清水八幡宮で実施したナイトウォークのように新しいイベントを取り入れるなど、トライアンドエラーを反復していくことが必要。

<委員>

先の将来を見据え、玄関口である石清水八幡宮駅周辺を整備し、市内周遊する仕組みが必要。八幡に住む子どもたちが、八幡のシンボルが分からないといった事態に陥っている。

<委員>

情報発信力が低いことは以前からの課題であるが、八幡の知名度が低い。子どもたちが将来、八幡を故郷と思ってもらいたい。

<委員>

観光客が手軽に消費できる場がないことが課題。また、例えば、小学生対象のイラストコンテストを実施し、まちづくりのイメージを膨らませることも考えられる。

<事務局>

今年度、秋の文化財一斉公開と同日に、大学やUR都市機構、民間企業や団体等と連携しながら、UR 男山団地の緑道や広場にて健康やスポーツ、飲食等を楽しめるマルシェの開催や、神社仏閣を巡りながらのウォーキングイベントを実施する手法を試みる。また、玄関口である駅前整備に関しては、市長のまちかどタウンミーティングや、ワークショップを開催しているため、将来を見据えたまちづくりの実現に向け、機会があれば参加いただきたい。

4 みんなで創る多機能な力を有したまちの創生「住んでよしのやわたチャレンジプロジェクト」

<委員>

「市域就職面接会で就業に至った人数」について、求人募集を行う企業側から見ると、充足していないと感じているところ。八幡は府境に位置するため、最低賃金が高い枚方市に流れやすい傾向にある。

<委員>

世間で指摘されている 2024 年問題があるが、若い人たちが就職することに意欲がない。八幡で就職するメリットがないため、市外へ流出する原因となっていると思う。

企業版ふるさと納税への意見

【資料 3】

<委員>

木津川市の寄附金活用事例では、多くの方が恩恵を受けられる事業として、花火大会に使用されている。

<委員>

寄附金の活用については寄附された企業が納得のいくような仕組みとし、広くみんなに恩恵が行き渡るよう取り組まれない。なお、寄附金の使途としては、概ね適切であると判断。